

令和5年度 社会科

教科	社会科	科目	日本史B	単位数	3	年次/コース	高校3年生/進学文
使用教科書	山川出版社『詳説日本史 改訂版』						
副教材など	山川出版社『復習と演習 日本史テスト 改訂版』 山川出版社『詳説日本史 改訂版 10分間テスト』						

1. 担当者からのメッセージなど（学習方法など）

高校3年生では、大学受験において必須である近現代史を中心に授業を展開します。明治、大正、昭和の3つの時代におけるポイントを理解し、知識の習得を目指しましょう。また、受験だけではなく先に挙げた3つの時代の政治、経済、外交、文化などは、現代社会との共通点が非常に多く、歴史学を通して様々な事柄を思考する力を体得してほしいと思います。授業においては、教科書を中心に展開をし単なる暗記だけではなく、その時代の特色をしっかりと捉え学習していきましょう。

2. 学習の到達目標

江戸時代後期から現代に至る歴史の展開を、同じ地理歴史科の世界史や地理との関連を一層重視して、国内外の地理的条件やアジアを含む世界史的視野に立ち、政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素を総合した幅広い見方で大きく把握する。それと同時に、各時代の国家・社会の特色や時代の変遷に関わる総合的な考察を通じて、我が国の文化がどのような特色をもち、どのような伝統が形成されてきたかについての認識を深める。その際、諸事象の本質をその歴史的な形成・展開の過程の実証的な考察によってとらえる歴史的な思考力の育成を図るとともに、国際社会に主体的に生き平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養うことを到達目標とする。

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	A：関心・意欲・態度	B：思考・判断・表現	C：資料活用の技能	D：知識・理解
観点の趣旨	歴史的事実と現代の結びつきを意欲的に学び、現代の社会が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく主体としての自覚をもって考える。	日本の歴史の展開から課題を見出し、世界の歴史や国際環境等と関連付けて、実証的、多角的、多面的に考察し、公正に判断する。	日本の歴史を考察するために必要な諸資料を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身に付ける。	基本的な歴史事象に関する知識を身に付け、各時代の特色を理解する。また、日本の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて理解する。
評価方法				

4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	評価の観点				評価規準
			A	B	C	D	
1	第Ⅲ部 近世 第8章 幕藩体制の動揺	2 宝暦・天明期の文化		○	○	○	社会の変容に着目して、この時期の学問の確立、各地に設立された教育機関の展開をとらえる。(B) 江戸中期に確立した洋学や国学、新たな形で展開する文学・芸能・美術について、社会の変容に伴う幕藩体制の動揺と関連づけて理解する。(C・D)
		3 幕府の衰退と近代への道	○			○	欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程及び、マニュファクチュアなど近代の萌芽がみられ、諸藩の財政再建から軍事産業の確立に至る雄藩の出現過程を考察する。(A) 列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判を理解する。また、複数の失政を踏まえて、幕府の衰退を理解する。(D)
		4 化政文化	○	○	○	○	幕藩体制に批判的な学問・思想の起こり、寺子屋など庶民教育機関の普及、浮世絵に象徴される出版文化の発達などに着目して、文化における近代化の芽生えをとらえ、表現する。(B) 学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して理解する。(C・D)
		1 開国と幕末の動乱	○	○	○	○	国際環境の変化に着目して、開国から明治維新に至るまでの過程を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。(A) 日米和親条約や日米修好通商条約締結、開港による経済・社会の情勢変化に着目して、政局への影響をとらえ、表現する。(B)
	第Ⅳ部 近代・現代 第9章 近代国家の成立	2 明治維新と富国強兵	○	○	○	○	幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕府勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。特に、幕末期の公武合体、尊王攘夷、倒幕の動きに着目し

						て、権力構造の変化を理解する。 (D) 明治新政府の制度改革や諸政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を考察する。(A) 明治初期の諸政策に着目して、明治政府が中央集権体制を構築していく過程を理解するとともに、欧米の文化・思想の導入と一連の近代化政策に対する反動としての士族反乱・農民一揆の失敗と、言論による要求実現への転換を理解する。(C・D)
--	--	--	--	--	--	---

1 学期中間考査

		戦争				いを多面的・多角的にとらえ、表現する。 (B)
		4 日露戦争と国際関係	○	○	○	<p>政府の強力な中央集権体制の志向のなか、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間に、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。(A)</p> <p>国会開設要求の運動などに見られる国民の政治的関心の高揚と挫折の過程について理解する。また、憲法の特徴、議会と内閣の在り方などを通して、戦前の立憲制のしくみを理解する(D)</p> <p>条約改正が、法典整備など国内体制の確立だけでなく、英露対立を背景にして進展した点を、年表や地図から考察し、表現する(B・C)</p> <p>東アジアをめぐる国際環境が変容するなか、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯を理解する。(D)</p> <p>英露対立という世界情勢を背景とした日露戦争が軍事力・経済力・工業力など国家の総力を結集して戦われた点を考察する。また、日本の勝利がアジア諸国の民族独立や近代化運動を刺激した反面、その後の韓国併合や満州進出の動きが国民の対外意識や近隣諸国の受け止め方への変化につながったことも考察する。(A)</p>
		5 近代産業の発展	○	○	○	<p>開戦に至る国際関係や日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進を諸外国の動向と関連付けて理解する。(C・D)</p> <p>立憲体制成立後から桂園時代にいたるまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の対立と協力の視点から理解する。(D)</p> <p>日清・日露戦争前後に、資本主義国家の基礎が確立された過程を産業革命や近代産業の発展に着目して考察する。(A)</p>

第10章 二つの世界大戦とアジア	6 近代文化の発達	○	○	○	<p>近代産業の発展に伴う社会問題の発生と政府の対応について考察し、表現する。(B)</p> <p>殖産興業政策を基礎に産業基盤の整備が進み、繊維部門での産業革命以降、製鉄・造船などの重化学工業の形成、鉄道・海運の伸張、財閥の形成、寄生地主制の成立などを相互に関連づけて理解する。また、劣悪な労働条件に対する労働争議の頻発と社会主義運動の高まり、足尾鉍毒事件などに関心を持ち、社会運動への政府の対応を理解する。(C・D)</p>
	1 第一次世界大戦と日本	○	○	○	<p>伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性を持って成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。(A)</p> <p>国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、高い就学率を誇る教育の普及・拡充に着目して、国民が主体的に文化の創造に取り組んできた姿勢を理解する。(C・D)</p> <p>第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。また、特に、大戦景気に着目して、資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構</p>

1 学期期末考査

	3 市民生活の変容と大衆文化	○	○	○	<p>第一次護憲運動による大正政変以降、政党勢力が国民統合の中心的役割を果たしていく過程を理解した上で、欧米からアジアに至るまで広い範囲の国際環境の推移に着目し、対華二十一カ条要求・シベリア出兵が国内外に及ぼした影響を理解する。また、米騒動や原敬内閣の成立に着目してデモクラシー思想の浸透による政党の役割と動向について理解する。(D)</p> <p>ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。また、民主主義的風潮による社会運動の動向を理解すると共に、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。(A)</p> <p>ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や日本の大陸進出に対する中国・朝鮮における民族運動の高揚を理解する。また、様々な社会運動が起こってきた背景に着目し、普選運動・</p>
	4 恐慌の時代	○	○	○	

						<p>護憲三派内閣の成立・治安維持法の成立などを理解する。(D)</p> <p>労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、市民文化の特色について考察する。(A)</p> <p>学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連付けに着目して理解する。(D)</p> <p>戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目する。(A)</p> <p>社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察し、表現する。(B)</p> <p>戦後恐慌・金融恐慌・昭和恐慌を取り上げ、背景となる関東大震災・金解禁・世界恐慌との関連を含めて理解する。また、無産政党的誕生など社会主義運動が高まる中、山東出兵や統帥権干犯問題など軍部の政治的進出を背景に協調外交から積極外交へと転換していく過程を理解する。(D)</p> <p>日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について考察し、表現する。(B)</p> <p>満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて理解する。また、管理通貨制度への移行、新興財閥の台頭、思想的転向や学問への弾圧などを踏まえ、軍部の政治関与が増大した過程を理解する。(D)</p> <p>第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。(A)</p>
		5 軍部の台頭		○	○	
		6 第二次世界大戦	○	○	○	○
2 学期中間考査						
						<p>国家体制の進展を考察し、表現する。(B)</p> <p>中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済と国民生活・文化など、様々な角度から理解する。</p> <p>また、連合国と枢軸国の性格の違いや国民生活の犠牲のうえに成り立っていた総力戦体制などを踏まえ、日本がアジアの諸国に多大な損害を与えたことや広島・長崎への原爆投下など日本も空前の戦禍を被ったことを理解する。(D)</p>

	第12章 高度成長の時代	2 冷戦の開始と講和	○		○	<p>GHQによる諸政策が、対日占領政策に基づくとともに、日本の国民の戦争に対する反省に支えられて実施されたことに気付く。(A)</p> <p>戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を考察し、表現する。(B)</p> <p>戦後政治の動きを踏まえて、日本国憲法制定の意義を理解する。特に、主権在民・平和主義・基本的人権の尊重の3原則を中心とする日本国憲法が制定された経緯と意味については、国民生活の状況も踏まえて理解する。(C・D)</p>
	第12章 高度成長の時代	1 55年体制	○	○	○	<p>東アジア情勢の変化を踏まえ、日本が独立した意義を考える。また、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。(A)</p> <p>中華人民共和国の成立、朝鮮戦争の勃発に伴う占領政策の転換として、経済面では経済安定九原則、政治面では警察予備隊の新設を理解する。特に、サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義と、安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を理解する。(D)</p>
	第12章 高度成長の時代	2 経済復興から高度成長へ	○	○	○	<p>保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生に至るまでを、外交・政治・経済を踏まえて多面的・多角的に考察する。また、冷戦構造に雪解けの状況が生まれる中、日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察し、表現する。(B)</p>
	第13章 激動する世界と日本	1 経済大国への道	○	○	○	<p>独立後の日本国内政治について、55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。また、サンフランシスコ非調印国との国交交渉と、国際連合加盟の意義を理解し、その後の外交・政治の再編過程を理解する。(D)</p>
	第13章 激動する世界と日本	2 冷戦の終結と日本社会	○	○	○	<p>朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。また、消費革命による社会の変貌と経済成長がもたらしたひずみである社会問題について考察する。(A)</p> <p>特需景気の影響、産業構造の高度化などを踏まえ、開放経済体制のもとでの日本の動きを理解する。また、耐久消費財の普及による豊かさの享受、流通</p>

入試問題演習	の変容			<p>網・交通網の整備、技術革新が進む一方、農村の過疎化や公害問題などの社会問題も理解し、表現する。(B・C・D)</p> <p>ベトナム戦争を遠因とするドル＝ショックや第四次中東戦争に発する石油危機による世界経済の混乱に対応するため開かれた主要先進国首脳会議が、その後の世界的な問題解決の場となったことに気付く。(A)</p> <p>高度成長が終焉し、保守政権が動揺するなか、二度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察</p>
2 学期期末考査 <small>学期期末考査</small>				
				<p>大国となった日本が ODA などの社会貢献や貿易摩擦・円高への対応が求められたことを理解する。(C・D)</p> <p>科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。(A)</p> <p>冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえ、表現する。(B)</p> <p>冷戦終結後の東欧革命、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを理解する。また、原子力に対する安全性、国連平和維持活動への対応、経済不況に対する国内改革などを理解する。(D)</p>